

東日本大震災現地レポート

投稿者:「まちづくりネットワーク緑」 田中 晃

- ◆開催月日: 2011年6月10日(木)
- ◆開催時間: 18:30~20:30
- ◆開催場所: 白山地区センター

鴨居駅周辺まちづくり研究会
主催の「震災に備える」

(だれもが安心できるまちと暮らしを!) がありました。

参加者 50 名



◆緑区の被災時の対応 緑区区政推進課 脇本課長

区役所は、地震発生時に停電し、訪れていた区民全員を外に避難させた。(区役所の耐震化が現在未完了のため) 職員は地域防災拠点との連絡調整、帰宅困難者が4駅で500人発生、毛布、水やクラッカーを避難先の地区センターに届けた。計画停電は3月14日から6回あったが、電気が点くのは災害対策本部、総務課の一部と階段だけで、真っ暗な中で、市民の窓口対応を行った。証明書類がシステム化されており、停電で使用できないが、改善を予定している。

●「震災に備える」 常光明子さん (男女共同参画センター横浜北)



◆「わたしの防災カノート」発行の経過

ある日突然、誰のうえにも起こりうる災害、そこには、女性ならではの不安や災害リスクがあるのでは?

(例えば) 地縁が薄くなっており、災害発生時に一人女性が近所に住んでいないか、初期救助の必要性は?

○避難所では、子どもが夜泣きして周辺に迷惑がかかる。ママのストレスもたまる。ママとおしの会話が必要である。

○子ども用のミルクやおむつ、アトピー非常食、インフルエンザも心配。

○生理用品、化粧、洗濯、便座カバー、提供された下着のサイズ合わせ。



◆女性の視点での避難所運営をイメージして欲しい

○女性の職員や運営リーダーを配置、女性の声を通るようにしたい

○着替えや体をふく女性専用部屋、赤ちゃんへの配慮、物干場

○トイレの男女別設置、トイレの場所や明かりへの配慮

○安全パトロール、医務室、悩みを聞く相談室や介護室 など

◆小林さん(3月26日から4日間、仙台市若林区)

○50名で満杯の避難所、行政の常駐職員の補助を行った

○市民窓口、お知らせ、医療窓口、死体安置所との連絡 など

○食事の順番は応援時にはルール化されていた

食事は3日目から、温かい食事は2週間後、食事は1日2回

○避難所の課題: スペースの取り過ぎ、わがままな方の存在

◆脇本さん(ピースボードに参加、石巻に8日間、6人で1班)

○半壊地区でがれき処理(8~9割)、へどろ処理、家電集め

○鉄板付き靴をはき、ゴム手に皮手袋で作業した

○淡水化装置が自衛隊により設置されていた

緑区職員の現地活動

